

研究評価委員会分科会の各委員からの所見について (事前評価)

課題名「サイバーインフラを用いた建築安全情報共有システムの構築」

1. 主な所見

・「目的・必要性」の説明

建築物内の事故はあってはならないが、実際には意外と多い。安心で安全な建築は、時代の要請であり、情報共有システムの構築の必要性は十分に説明されている。今後研究を進めながら具体的な問題設定をしていかななくてはならない部分もあるので、十分検討が必要がある。

・「具体的計画」の立案

ほぼ適切な立案と思われる。ハード面の具体的計画は明確である。ソフト面については研究を進めながら具体化されていく部分があることは理解できるので、情報提供者である各協力組織にとってもメリットのあるような組織作りなど、進め方の検討が必要である。

・「体制」の適切な計画

ほぼ適切に計画されていると思われる。建築学会や共同研究組織でも検討が進められることが期待できるとすれば、体制に問題は少ないと考えられる。実際にはシステムのプロトタイプを作って検討することになりそうであるが、公開のタイミングやどの程度の規模のプロトタイプを作るかは、費用を含めた問題となる可能性がある。

・建築研究所に相応しい研究開発課題か

ユーザーメーカー等が個別に保有する情報や国交省、旧住宅公団、関連協会等から情報提供の支援を受けることは個別の企業では対応できない問題であり、官と民の間にある研究機関として建築研究所が中心となって課題を行うことはきわめて相応しい課題と認められる。しかし、情報共有システムの構築のみが建研の研究すべきテーマであるというならば疑問の余地がある。

・「目標とする成果」の適切な設定

目標とする成果は明確であるが、研究を進めながら具体化されていく部分があることは理解できるので、集める情報・知見の種類やその体系化・構造化について、さらに詰めた検討を加えてほしい。情報共有システムは、構築後の運用も重要な検討課題であるため、着実な運営が可能なよう外部の検討会などを用いて検討が必要である。経費・エフォートが限られているため、今後テーマを具体的に絞り込むべきと考える。

・総合所見及び修正すべき点

研究課題は、時代を反映したもので適切な設定と考える。このような事故情報・安全情報の収集・蓄積・公開は、事故が起こるたびにその必要性の指摘がされているところであり、きわめて時宜を得た課題設定であると評価できる。最終的に目指すシステムは膨大なものとなることが予想されるので、その第一歩としての実効性の高い成果やプロトタイプのあり方とは何かを十分考えて、取り組んでほしい。また、3年間の研究が終わってからシステムを構築するというのではなく、研究の途中で、システム構築を一部開始するという形で研究を進めてほしい。システムの運営主体をどうするか、情報の正しい(悪用されない)公開をどのように図るか、など、システムの問題点がより明確になり、実用的なシステムを構築することができると思う。また実用的な視点

に立つと、弱者（老人、こども）と一般の健常者によって危険度評価が別に表示されるとか、安全情報も建築内外の空間別に表示されるような分かりやすいシステムにしていきたい。また、情報共有システムの利用者については、エンドユーザーの市民とサービスを提供するサプライヤーは異なった安全・安心のデータベースを必要とすると思われる。

2. 主な所見に対する回答

・安心で安全な建築は時代の要請であるという認識を十分持ち、課題を遂行してまいりたいと思います。また、ご指摘の通り、今後具体的な研究を進めながら検討していく部分もあると感じておりますので、検討委員会など有識者からのご意見を頂く場を設定し、研究に反映させていく必要があると感じております。

・情報提供者である協力組織との連携など、運用面やソフト面で研究を進めつつ検討を行っていく必要のある部分があります。課題実施時にはソフト面での具体性を意識し、研究を進めてまいります。

・体制については、建築学会や共同研究組織等と十分に連携を取りながら取り組みたいと思います。また、予算規模に従った適切な研究範囲を設定し、計画的に研究を遂行していきたいと思っております。

・建築研究所の独自性を活かし、課題を進めてまいります。また、システムの構築のみならず、安全情報（コンテンツ）の充実や、システムの運用方法、情報開示の手続、等の検討も併せて行っていく所存です。

・構築後の運用も重要な検討課題と認識し、建築学会や共同研究組織等と十分に連携を取りながら取り組みたいと思います。また、予算規模に従った適切な研究範囲を設定し、計画的に研究を遂行していきたいと思っております。

・ご指摘頂いている通り、本研究課題の必要性を十分認識した上で、取り組んでまいりたいと思います。また、実効性の高い成果やプロトタイプのあるあり方を見据え、研究の早い段階でシステムの構築を進め、検討委員会などの場を通して、システムの運営方法などのご意見を頂きたいと考えています。また、人の属性（子ども高齢者 etc）や空間など安全情報のキーワード検索システムも対応していきたいと考えています。また、それぞれの主体にあったインターフェースを設計することで、エンドユーザーである市民や情報を提供するメーカー等へ対応するシステムとなるよう検討して参ります。